

各
10
(
30

各
10
(
40

M4192-2-20

各5(20)

各
10
(
40

工 何が(は) : 何だ。

名前

ほくは、
何に手を
のばそうかな？



「自分から手をのばす」
ことを短く言うと
「積極的」とか「自主的」
とも言えるわね。

慣用句

32-33

名前 年 組 番 月 日 点

1 () に合う慣用句を□から選んで、記号で答えましょう。

- おじさんは、まっすぐで (ウ) なせいかくだ。
- 試験の会場は、 (ア) に静まりかえっている。
- ビル火災で、駅前 (イ) なさわぎになった。
- ここから見ると、相手の動きが (エ) に分かる。



2 の言葉を辞書で調べて、意味を□の記号で答えましょう。

- へそ曲がり (エ) アごまかしていることが、人に知られてしまう。
- しつぱをつかむ (イ) イごまかしていることを、見つけ出すこと。
- しつぱを出す (ア) ウ知っていても、知らないふりをする。こと。



3 () に合う言葉を、□から選んで書きましょう。

「やるも木から落ちる」は、 (ことわざ) です。
得意な事でも失敗はある…の意味で、昔からの
「教え」 や注意を表した言葉です。
「火花を散らす」は、 (かん用句) です。
『はげしく争う』の意味を表す決まり文句です。

慣用句
教え
ことわざ
ならわし

各10/30

アップとルーズで
伝える

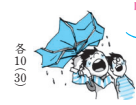
34-42

名前 年 組 番 月 日 点

1 と意味がにている言葉を選んで、記号を書きましょう。

- サッカー場の観客席は、ほぼ満員です。 (イ)
- ルーズだと選手の顔つきまでは、なかなか分からない。 (エ)
- 天気よほう通り、風は午後からいよいよ強くなった。 (ウ)
- ア本当はイだいたい ウますます エかんとんに

各10/30



2 の言葉の意味を、—でつなぎましょう。

- 目的を決める。 全体が一つにまとまること。
- 広いはんにいで雪がふる。 ねらいや目あてのこと。
- クラスが一体となる。 新しいことを見つけ出すこと。
- あるかぎられた広さや大きさ。

3 次の文を、説明されている言葉と説明している部分に分けましょう。

ア 広いはんにをうつすとり方を、「ルーズ」といいます。
イ 「首都」は、その国をおさめる役所のある都市です。
ウ 都道府県の一部で、町村をふくんだところを「郡」という。



説明されている言葉	説明している部分
ア 例えはルーズ	広いはんにをうつすとり方
イ 首都	その国をおさめる役所のある都市
ウ 郡	都道府県の一部で、町村をふくんだところ

おもしろい言い方の巻

名前



目を丸くする

目をつぶる

目を細める

目を引く

目をこらす

目をそむける

「目を丸くする」「目を細める」「目を引く」「目をこらす」「目をそむける」は、おもしろい言い方です。

たとえ言葉の巻

名前

「○○のような△△」の編

目の覚める ような

息をのむような

雲をつかむ ような

火が消えたような

いもをあらうような

美しい山のけしき

静かな商店街

特大のホームラン

朝の満員電車

はつきり計画

1 リーフレットの書き方で、正しいもの二つに○をつけましょう。

- () 初めに、そのクラブのよい点と、悪い点を書きます。
- (○) 中ほどで、よい点を伝える写真と文章をのせます。
- () 表紙に、活動場所、時間、人数を書きます。
- (○) 初めに、そのクラブのよい点を二つくらい書きます。

2 次の文の () に合う言葉を、□ から選んで書きましょう。

各 10 点



最初に、「だれ」に「何」を伝えるか決めます。それから、読み手に伝えたいよい点を選びます。よい点をいくつかあげると、(楽しい) が伝わりやすくなります。

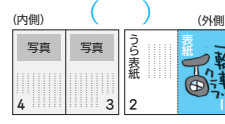
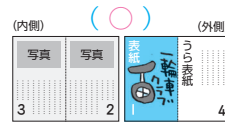
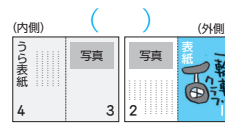
説明の文章は、内容のまとまりごとに (段落) を分けます。そして、内容に合う (写真) をそえたり、(具体例) をあげると、読み手に分かりやすい文章になります。

リーフレットの作り方

工夫 写真 具体例 楽しさ 段落

3 リーフレットの作り方が正しいものに、○をつけましょう。

(30)



1 送りがなの正しいほうに、○をつけましょう。

- 辞典でしらべる。 予定をつたえる。 こまかい部品。
- () 調る () 伝える () 細かい
- (○) 調べる () 伝える (○) 細かい

2 次の作文を読んで答えましょう。

つばめ

石野 みさ子

ピアノのけいこに行くとき、姉がこんな話をしてくれました。「つばめが、ひくく飛んだら雨、そうでなかったら晴れるのよ。」

今日の帰りに、つばめがひくく飛んでいるのを見て、「あつ、明日は雨だ。」と姉は言いました。

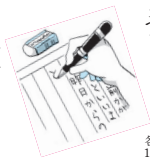


各 15 点

■ ア、イの符号の名前を、□ から選んで書きましょう。

ア (読点) イ (句点)

句点 点字 要点 読点



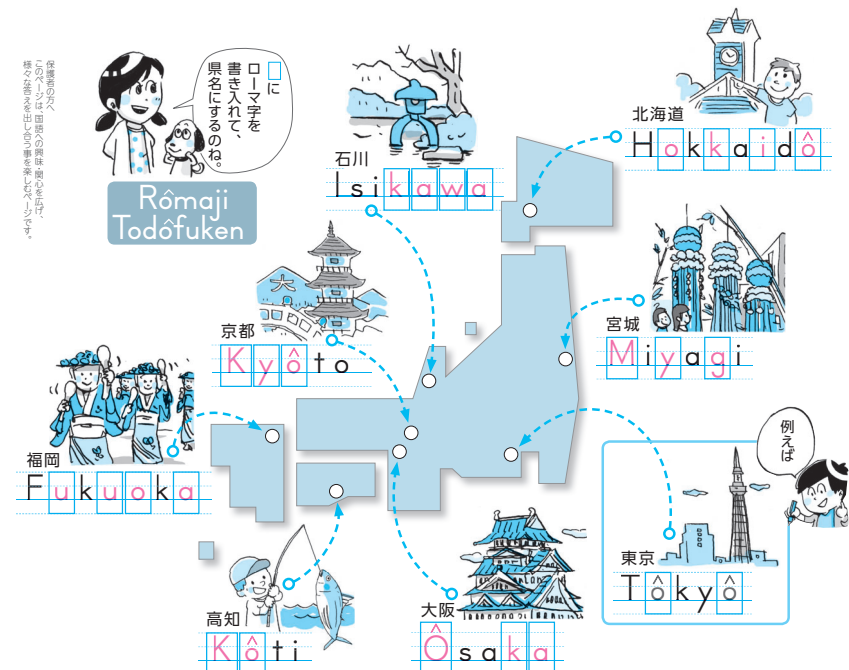
■ 作文に「が」一組めけています。作文の中に書き入れましょう。

「あつ、明日は雨だ。」



各 20 点

各 20 点



ローマ字を、書き入れて、県名にするのね。

例えは、

福岡 Fukuoka

高知 Kôchi

大阪 Ôsaka

東京 Tôkyô

宮城 Miyagi

北海道 Hokkaido

石川 Isikawa

京都 Kyôto

「都道府県」の編

全国一またぎの巻

動物の名前が、つく県名ね。() に書くのね。

熊 本県

鹿 児島県

鳥 取県

群馬 群馬県

熊 本県



名前 年 組 番 月 日 点

1 の言葉の意味を でつなぎましょう。

- 有利になる ふるさとに帰ること。
 帰省 ひざから足首までの部分のこと。
 すね 人の言うことをすなおに聞かないこと。
 自分たちの都合がよくなっていくこと。



2 場面が生き生きするように、 を の言葉と入れかえましょう。

- 小川が、濁流^{だぐりゅう}となってあふれる。
 そのとき、森はひどくゆれた。
 大きな木は、根をいっばい広げている。
 森は、鳥やせみの声でやかましい。
 こまつて あばれる おこったように ぎっしり 満ちている

3 次の三つの文をまとめて感想文にします。 でつなぎましょう。

自分の考えが変わったことや、自分がこれからどうしたいかを書く。
 感想を一つの文で表し、その感想を引き出した体験を書く。
 心に強く感じたことや、自分の考えたことをくわしく書く。

初め 中 終わり
 感想文



同じ読み方で
ちがう意味の言葉

1 とまるの意味を から選んで、記号で書きましょう。

- 時計がとまる。 (ア) 動かなくなる。
 いとこの家にとまる。 (ウ) イ物にかまって休む。
 歯のいたみがとまる。 (エ) ウよその家でねる。
 エ 続いていたものがやむ。



2 次の文に合う漢字を書きましょう。

この作品は、二人で協力^{きょうりょく}して仕上げた。
 この工作には、強力^{きょうりょく}なボンドが必要だ。
 今年の目あてを自分自身^{じしん}で決める。
 マラソンでは、だれにも負けない自信^{じしん}がある。



3 ? には、同じ言葉が入ります。ひらがなで書きましょう。

- ほうきて くつを 白い息を (はく)
 運が 皮を 右を (むく)
 気温が 雨が 雨が (あがる)
 気が せきにんが にもつが (おもい)



「大事なものは…」の編

おじさん、書きたいことはあるんだけど、どんなふうに書けばいいの？
 大事なものは、作文の書き出しなんだから、中玉から書き始めるんだ。
 大事なものは、作文の書き出しなんだから、中玉から書き始めるんだ。
 大事なものは、作文の書き出しなんだから、中玉から書き始めるんだ。
 大事なものは、作文の書き出しなんだから、中玉から書き始めるんだ。



漢字のしつぽの巻

名前

送りがなを
書くのね。



早起きに
努める

強いチームと
戦う



おなかを
満たす



初めて
歩く



にわとりを
養う



文と文をつなぐ言葉

64-69

名前 () 年 組 番 () 月 日 点

1 続く文を、でつなぎましょう。

今朝は、とても寒かった。

しかし、強い雨もふっていた。

それで、ジャケットを着た。

それに、昼にはあたたかくなった。

2 の文に合う言葉を、から選んで書きましょう。

おなかはべこべこだ。

そのうえ、のどもかわいた。

なぜなら、ニキロ走ったからだ。

それで、

週末は三連休だ。

それなのに、父は仕事だ。

それで、家族で旅行に出かける。

それなのに、

3 「だから」「しかし」のどちらかを使って、の文を二つの文にして、まずに書きかえましょう。

明日、つりに行きたいが、雨がふりそう。

雨がふりそう。

明日は、いい天気になりそうなので、つりに行こう。

だから、明日は、つりに行こう。

野原に集まれ

72-73

名前 () 年 組 番 () 月 日

詩を読んで、想ぞうしながら一行すつ写しましょう。

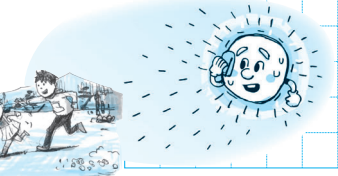
ぼくは太陽、春でも夏でも、秋でも冬でも、あせをかいちやう。

お月様は夜、だから、わかない。

野原のようすがわからない。

あせをかくぶん、だから、あせをおとくなんだ。

でも、あせをタオルでふいているとき、野原のみんなが遊んでいるのを見ると、楽しくなつて、わくわくするんだ。



ぼくは太陽、春でも夏でも、秋でも冬でも、あせをかいちやう。

お月様は夜、だから、わかない。

野原のようすがわからない。

あせをかくぶん、だから、あせをおとくなんだ。

でも、あせをタオルでふいているとき、野原のみんなが遊んでいるのを見ると、楽しくなつて、わくわくするんだ。

お月様は夜、だから、わかない。

野原のようすがわからない。

あせをかくぶん、だから、あせをおとくなんだ。



言葉の先祖様

「おおかみ少年」の編

【意味】 何度も人をだまして、信用されなくなつた人のこと。

1 オオカミが来たぞ！

2 あんたに、だまされん、だもんな。

3 うわあ、オオカミが来たよ！ 助けて！

4 いたすげ、やり過ぎる、こんなこと、なるんだ。



ゆたかな想像の巻

「詩をつくる」の編



1 詩をつくるには、まず、頭をカラッポにします。

2 自分じゃない何かに、なれるのよ！ 想像してみて...

3 じゃあ、わたしは、タコです。タコって、ぐにぐにやわやわ、手が本...。

4 先生、たかくんがすごい詩ができています。

3 じゃあ、わたしは、タコです。タコって、ぐにぐにやわやわ、手が本...。

4 先生、たかくんがすごい詩ができています。



ウナギのなぞを追って

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

1 () に合う言葉を、 () から選んで書きましょう。

各 10 点

この時間なら、もう試合は終わっている (はず) です。帰りがおそいのは、試合がのびているから (かも) しれません。あの店のお客さんは、女の人たち (ばかり) です。その店のランチに人気がある (よう) です。



2 に続く文を、 () でつなぎましょう。

各 10 点

わたしには兄と弟がいます。 () ですから、兄は来月、引越します。 () さらに、京都にいます。 () しかし、三人兄弟ということですから、妹が生まれます。

3 次の文章の () に合う言葉を、 () から選んで書きましょう。

各 10 点

長い文章の内容を短くまとめることを (要約) といいます。これには二つの方法があります。一つは、元の文章の (構成) をつかんで、その文章の表現を生かすやり方です。もう一つは、自分の (言葉) でまとめるやり方です。

省略 言葉 要約 構成



文章と段落

名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点

次の文を読んで答えましょう。

校庭に三本の大きな木が立っています。この大きな木は、新しい校舎が建てられたときに、前の学校があった場所から、わざわざ植ええられたものです。ぼくたちは、この木の下で遊ぶのが大好きです。秋になると、少しずつ葉が黄色に色づき始めます。 (ア) いちようの葉は、すてきな金色になります。それを合図に、寒さとともに葉っぱが、一まい二まいと散り始めます。今年もそんな季節になりました。夕焼けの光ががやく、ちようの葉は、本当にみごとです。



この文章は、何段落の文章ですか。

(三) 段落 (20)

次の段落のはじめの五文字を書きましょう。

各 15 点

二段落目 秋になると 三段落目 今年もそんな

(ア) に合う言葉を、 () から選んで書きましょう。

(20)

つい つまり やがて それでも

() やがて

次の文の主語を () に、述語を () に書きましょう。

各 15 点

夕焼けの 光に かがやく いちようの 葉は、本当に みごとです。 主語 (葉は) 述語 (みごとです)



ひらめき道場 同じなののにの巻

名前 ()

体温計



家計



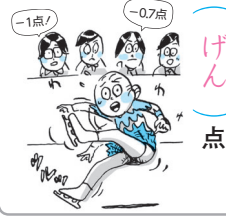
満点



同点



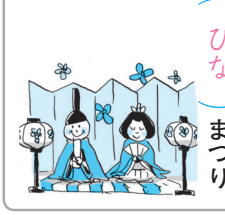
げん点



夏まつり



ひなまつり



後のまつり



このページは、国語の勉強のために、様々な言葉や表現を学べるようにしています。

ひらめき道場

段落をつけようの巻

名前 ()

段落的な文を書くときは、場面が変わるのを「五時間」で区切って書くんだね。

場面が変わるのを「五時間」で区切って書くんだね。

どうしよう。すっかり算数の宿題をわすれていた。わたしは給食を急いで食べ、すぐにやり始めた。五時間の算数で当てられたのは、となりの席の山田君だった。



と心に決めた。ぼくは、体育が大好きで、走るの

下の作文を、段落をつけて書き写すんだ。

ぼくは、体育が大好きで、走るの



1 「メモの取り方の工夫」について、正しいもの二つに○をつけましょう。

○ すばやく書くために、記号や短い言葉を使う。

○ だれが読んでも分かるように、ていねいに書く。

○ 聞き取れなかったことは、印を付けておく。

○ 「何が、何だ」などと、主語・述語をはっきりさせて書く。



各 10 点

2 下級生に「委員会活動」について説明をします。どんな順で話すと分かりやすいですか。番号を書きましょう。

各 20 点

1 わたしたちの美化委員会の活動について話をします。

4 ですから、花好きな人にこの委員会をおすすめします。

2 美化委員会の仕事は、主に次の二つです。

3 一つ目は、校庭の花の手入れです。二つ目は、校庭のそうじです。

5 みなさん、わたしたちといっしょに校庭を美しくしませんか。



3 行事の日と物の数を、表に漢字で書きましょう。

各 10 点

児童会	遠足	運動会	音楽会	行事の日	物の数
八日	二十日	七日	六日	六日	七つ
八つ	五つ	六つ	七つ		

例 いくつかの音楽会に、テーブルがなっている。
なかの運動会に、テントがむついている。
はつかの遠足に、おにぎりがいつついる。
ようかの児童会に、つくえがやつついる。

1 〇から漢字を選んで、上の字が下の字を修飾する熟語を作りましょう。

各 10 点

例えは 月の？ ↓ 月光

深い？ ↓ 深海

水の？ ↓ 水害

強い？ ↓ 強風

風 害 海 光

2 反対の意味の漢字を組み合わせて熟語を作ります。()に合う漢字を書きましょう。

各 10 点

高低

長短

終始

遠近

遠近

各 10 点

3 熟語の意味を書きましょう。

各 10 点

例えは 体育 (体を育てる) ()

音楽 (音を楽しむ) ()

作文 (文を作る) ()



4 ①に意味の字を組み合わせて熟語を作ります。②に漢字を書きましょう。

各 10 点

絵 助 戦 続
争 連 画 救

絵 画 戦 争
連 続 救 助

〇の漢字から
えんぴつで
書くんだね

今年、母校ができて百(周)年目です。

今(週)、そのお祝いの(集)会があります。

集 週 習 終 周



ぼくの(親)友の田中君は、(身)長が

高く、かけっこに自(信)をもっている。

その速さにほんとうに感(心)する。

心 親 身 真 信 進

初めて決(勝)で一等(賞)を勝ち取った

その日を(少)年の一郎は、決してわすれない。

今も強い印(象)として残っている。

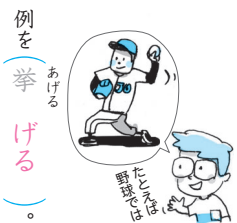
小 勝 少 賞 章 象



送りなを
書くのね

大声で(笑)う

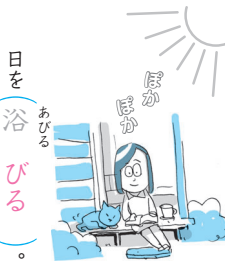
なをを(囲)む



例を(挙)げる

カバンの中を(改)める

日を(浴)びる



文の組み立て

1 次の文章を読んで、答えましょう。

「起きなさい、出発は七時ですよ。」

という母の声で、はっとして目を覚ました。

体がいたい。ぼくは、きのうおそくまで野球の練習があつたので、うっかりねすごした。あわててベッドから起き上がった。ぼくは、「しまった。」と思った。



アの文は、だれが話していますか。

イの文の主語・述語を書きましょう。

主語 () 述語 ()

2 が、くわしくしている言葉に、— を引きましょう。

母の 声で、はっとして 目を 覚ました。

あわてて ベッドから 起き上がった。

すっかり 友だちとの 約束を わすれていた。

3 次の文の主語には— を、述語には— を引きましょう。

きのう おそくまで 野球の 練習が あつた。

ぼくは、「しまった。」 思った。



名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点 ()

M4 2-15-33

わたしの研究レポート

94-101

1 () に合う漢字を、□ から選んで書きましょう。

必要

必要 な本をさがす。

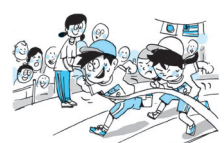
未来

未来 の車について考える。

月

月 には、運動会がある。

筆	要	末	来
必	用	未	月



2 ほうくく書を組み立てます。次の文に順番をつけましょう。

2 調べて分かったことを、内容ごとに分けて書いた文章。

3 調べたことのとめや、とちゅうで考えたことの文章。

1 調べようとしたわけや、調べ方を書いた文章。

4 参考にした本の題名、筆者名、出版社名などを書いたもの。



3 の意味を下から選んで、— でつなぎましょう。

課題 を考える。 — ものこの様子や結果を知らせること。

引用 する。 — 問題としてあたえられたことから。

ほうくくする。 — 他人の文章の一部を、自分の文章の中に使うこと。

複数の本 — 書いてあることが、むずかしいこと。

— 二つか、それより大きい数。



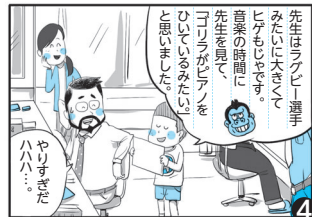
名前 () 年 組 番 () 月 日 () 点 ()

M4 2-16-34

「作文の時間」の編



「すっきりした文章」の編



ましがえやすい漢字

102-103

名前 () 年 組 番 () 月 日 点

1 () に合う漢字を、□から選んで書きましょう。

各10 40

宿題を、(早)めに仕上げる。
父は、歩くのが(速)い。



水泳を習い、(始)める。
今年、(初)めて泳ぐ。



始 初 早 速

2 の漢字の読み方を書きましょう。

※上・下等 各10 20

分教を学ぶ。
おやつを分ける。
五分間待った。

(ぶん) (わ) (ぶん)

漢字の音訓
物音がする。
美しい音色を聞く。

(おんくん) (ものおと) (ねいろ)

3 () に合う漢字を書きましょう。

ボールをけるのは、(意外)にむずかしい。
野菜ジュース (以外) は飲まない。

動かなくなった (機械) を直す。
せっかくの (機会) をのがす。



各10 40

十年後のわたしへ

124

名前 () 年 組 番 () 月 日 点

左の作文を、自分に呼びかけるように読んでみましょう。

十年後の自分へ

田中 健

こんにちは。
背も大きくなったね。健も大学生だものね。
この手紙を書いているのは、小学校四年生の
野球少年の健です。
そのぼくは、今年の夏、家族旅行で北海道
へ行きました。大沼公園で出会った人が、
「ぜったい大雪山に登るといいよ。」
とすすめてくれました。



「きつ」と言う言葉を使って、「十年後の自分へ」の題で、うら面に
作文を書きましよう。

おもしろい言い方の巻

名前

名前

おもしろそう。
体の部分の
漢字を()に
書くのね。



「首」を長くして待つ。
「目」を通す。
「歯」が立たない。
「手」に負えない。
「頭」が低い。

十年後の自分へ

十年後の自分へ